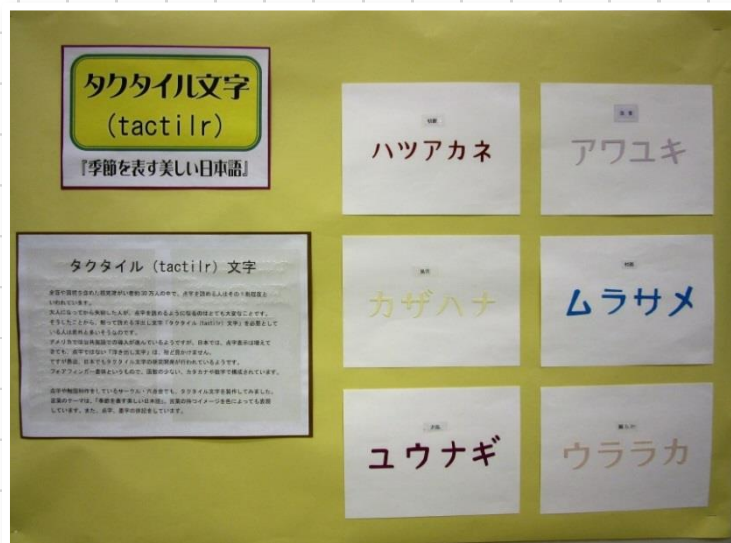


第10回 ワークショップ 2016(1)

2016（平成28年）2月26日、文京シビックセンター1階アートサロンにて、第10回ワークショップを行いました。今年は文京区社会福祉協議会 平成27年度ボランティア・市民活動団体 地域貢献事業助成金を受けての開催であることを報告します。

展示作品は、触図と点字で製作した、江戸と京都のいろはかるた。季節を表す美しい日本語を、タクタイル文字で表現した作品。三角をテーマに、貼りこみにより製作した知育絵本。どれも大変好評をいただきました。体験コーナーでは、有限会社安久工機協賛により、触図筆ペン「ラピコ」を使って絵や文字を描くのが大人気でした。また、「ラピコ」による作品の展示も人目を引きました。

当日の
会場の様子



触って読める
タクタイル文字
(浮き出し文字)

季節を表す美しい日本語をテーマに製作しました。

初めての「ラピコ」で、とても上手に富士山を描かれています。



触図筆ペン「ラピコ」で
描いた作品



筆ペンの形状で構成されています。



《体験》
春のカードづくり

毎年好評の、貼りこみによる春のカードづくり。

かるたに使われる「いろはにほへと・・・」で始まることわざは、江戸と京都では内容が異なります。文化的な違いも垣間見え、比較して見ると、とても面白いものです。今回ワークショップで展示した96作品の中から、一部抜粋でご紹介します。

犬も歩けば棒にあたる(江戸)



憎まれっ子世に憚る(江戸)



骨折り損のくたびれ儲け(江戸)



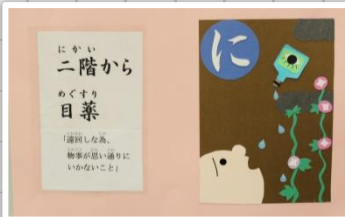
塵も積もれば山となる(江戸)



老いては子に従え(江戸)



一寸先は闇(京都)



二階から目薬(京都)



仏の顔も三度(京都)



地獄の沙汰も金次第(京都)



鬼も十八(京都)

割れ鍋に綴じ蓋(江戸)



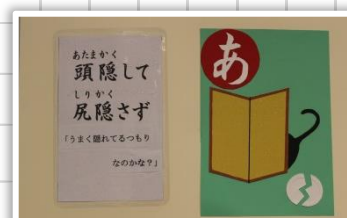
臭い物に蓋をする(江戸)



子は三界の首枷(江戸)



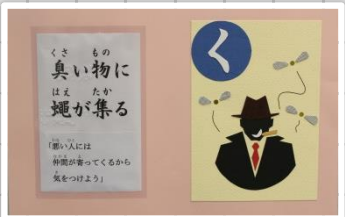
頭隠して尻隠さず(江戸)



聞いて極楽見て地獄(江戸)



笑う門には福来る(京都)



臭い物に蠅が集る(京都)



これに懲りよ道才坊(京都)



足元から鳥が立つ(京都)



義理と禪欠かされぬ(京都)